

---

# OUTSIDE

風鈴黒斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

OUTSIDE

### 【コード】

N5301K

### 【作者名】

風鈴黒斗

### 【あらすじ】

高校三年の冬、嫌々ながらも親友とともに合格祈願をしようと神社についた彼らは空が砕ける音を聞いた。裂け目に引きずり込まれ、ついた先は異世界。しかし、召喚後10分も経たず国家反逆罪を突き付けられてしまうのであった。

## プロローグ

どんなに過酷で悲惨な状況に立たされようと現実逃避だけはしてはならない。

長年勤めてきた企業から突然経営破綻の宣告をつけたり、式場で新婦から破局宣言されるとともに、旧友との熱愛宣言を告げられたりしたとしてもだ。

……いや、流石にそこまで叩きのめされると現実逃避以前に人生のシャッター下ろしかねないか……

辛気臭い例え話はともかく、現実逃避から得られるものは気休め程度の安息でしかない。そればかりか現実逃避という油断は、己をさらなら深みへと沈める要因にもなりかねないのだ。

つまり現実から目を逸らさずに逆境を乗り越えていくことこそ、充実した人生を送るすべだと自負している。

だが実際はどうだろうか？

常日頃そう息巻いていた自分は今、危機的状況に追い込まれている。文字通り身動きがとれない四面楚歌。

ああ、これが反骨精神などと呼ばれるものか。どうやらまだ自分は反抗期さえ抜け出せていないようだ。

……

「うわああああ！これ以上冷静に自己分析なんかできるか！」

虚無と呼んでも差し支えない何もない世界。その中心で少年、織田零士は己の身に降り掛かった状況に混乱、もとい発狂していた。

「さつきから黙ってると思ったたら現実逃避なんかしてたのかよ。心配しなくてもそのうち何とかなるさ。」

「そんなてめえにつき合わされた結果、今まで俺がどれだけ被害を受けたかわかってて言ってるのか!？」

俺の魂の叫びに、聞き慣れた呑気な声が返ってきた。今まで目を背けていた相手、御霊刃みたまじんの方へと改めて向き直った。身長は俺とさして変わらず170程度だが、日本人離れた長い手足をしている。

「零士の不幸体質の責任を勝手になすりつけんなよ。だいたい騒動の種を持つてくるのはいつもそつちだろ？」

「うつ………で、でも最終的に発火、炎上させんのはあきらや刃じゃないか。」

「まあ否定も反省もしないが。」

「無駄とはわかってるけど、せめて反省だけはしてくれ。」

そう、こいつともう一人の親友であるあきは事あるごとに騒動を巻き起こしていた。最初の頃は子供の喧嘩やイタズラで済まされていたものが、高校に上がる頃には不良の喧嘩レベルを超え、ヤのつく自営業の方々に目の敵にされたり、チャイナマフィアの密輸現場で激しい抗争を繰り広げたりしてたわけだ。

自身が認めてしまうほどの不幸体質である俺は、親友曰く、自販機や街灯のごとく騒動を引き寄せてくるらしい。ただし、この時点で回避もしくは穏便に対処すれば何事もなく日常を過ごせるのだ。

だが問題はその火種にあきらや刃が関わった時だろう。正義感を体現したかのような性格をしたあきらの場合、困っている人や助けを求める人に無条件無報酬で手を貸してしまうのだ（もちろん付き合われる）。

刃の場合はさらに性質が悪く、快樂主義とともに樂觀至上主義である彼は騒動を楽しむ傾向があり、こいつのせいで事態が悪化したことが多々あった。

ようするに三人一緒にいれば騒がしいことには事かかなかったというわけだ。

思い返してみても凡人である自分がよくここまで生き残れたもの。人間多少才能がなくてもなんとかかなるもんだな。

しかし、どうやら俺の悪運もここで尽きたようだ。

地平線さえあるか疑わしいこの何もない世界に飛ばされたのだ。夢オチに望みを託す以外どうしようもない。まあ、目の前の馬鹿野郎はそんな心配など露ほどもしていないだろう。

そもそもこんなことになったのも元はと言えばこいつのせいだし……  
そして事態は30分程前に遡る。

一月下旬、高校最後の冬を受験勉強につき込んでいる零士は、降り積もる雪と同化してしまうほどに白く燃え尽きていた。

そんな彼を片手で引きずっているのは、真冬だというのに防寒着を一切身につけずジャージ姿で雪道を進んでいく刃であった。

「……刃、急に呼び出して徹夜明けの俺を引きずりどこに連れていく気だ？」

「ん？言ってなかったっけ。空鳴神社に合格祈願しに行く。あきらもじっちゃんも待ってるぞ。」

零士は逃げ出した。

しかし、刃に回り込まれてしまった

零士は暴れだした。

刃の渾身の一撃、……零士はおとなしくなった。

「そういえばお前受験、受験って理由つけて最近稽古に来なかったな。じっちゃん、相当怒ってたぞ。」

返事がない、ただの零士しかほねのようだ。

ぐったり横たわった零士を担いだ刃はそのまま目的地の空鳴神社へと向かうのであった。

「なんで俺がこんな仕打ちを受けてんだ？」

「縛ってないとすぐ逃げだすからだ。じっちゃんが帰ってくるまでの辛抱だ。」

「縄や手錠だとすぐ逃げだすから鎖で縛っておいたけど痛くない？」

数分後、空鳴神社の片隅の岩に括りつけられた零士は、怒気を孕ませながら、親の仇でも見るような眼で目の前にいる二人を睨んだ。片割れは刃だが、もう一人はこちらと視線を合わせるようにしゃがみこんでいる少女だった。いや、容姿端麗なその姿から美少女と言い換えた方がいいかもしれない。まあ他にも頭脳明晰、運動神経抜群といったオプションも付いてくるのだが、外見八割内面二割でしか女性をみることができない自分には、どうでもいいことだ。

……やっぱり、前にも増して胸でかくなってるのか？

「今、私見て変なこと思わなかった？」

「H A H A H A、こんな純粹無垢な眼差しを向ける少年が、いかがわしいことなど考えるはずないでしょ。」

「心臓に毛どころか、暗黒物質溜めこんでそんな零士君にそんなこ

といわれても。」

呆れ顔でこちらを見下ろしてくるのが、小学生からの知り合いである空鳴あきらだ。ここで誤認を招く恐れがあるので予め注意しておくが、彼女と自分は間違っても赤い糸もしくはそれに類似した何かなどありはしない。いや、あつてたまるか！

たしかに容姿端麗の時点で高得点なのだが、その土台をぶち壊すほどの性格破綻者なのだ。彼女に当てはまる言葉といえば猪突猛進、唯我独尊、馬耳東風といった死角なしの自己中女なのだ。

だが、悲しいことにどうやら彼女と自分の間には腐れ縁なるものが存在するようで、こちらは仲好くするつもりなど毛頭ないのだが、いつの間にもやら彼氏だと彼女の信者に勘違いされて命を狙われるまでの仲になっていた。

………そういえば、狂信者に狙われた時の精神的ダメージは計り知れなかったな。昨日まで仲好く話していたはずのクラスメイト数人が刃物取り出して集団で襲ってくるんだぜ？

“貴様は恐れ多くもわれらの女神様を穢した。その罪は十字架に血肉を捧げることによってのみ償われる”とかお経のようにぶつぶつ喋き、刃物を突き付けられた。

本当に死ぬかと思った。

あの時元凶であるあきらが何とかことを解決してくれたのはよかったが、彼女への好感度などプラスマイナスゼロとしか言いようがない



い。

しかし、そんな惨劇を喜劇でも楽しむように笑ってみていた刃は間違いなく俺の敵として認識されたのは言うまでもない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5301k/>

---

OUTSIDE

2010年10月20日17時56分発行